

# 第1回 アルミ付き紙パック 回収チャレンジ キャンペーン報告

日本テトラパックスのベルマーク運動



# 第1回「アルミ付き紙パック回収チャレンジ」 キャンペーンを実施しました。

## キャンペーンの狙い

テトラパックは2011年4月からベルマーク運動に協賛し、今年で8年目を迎えました。この間、多くの幼稚園、保育園、学校などの団体にご参加いただきました。その中で、「日本テトラパックのベルマーク運動」は、紙パックを「開いて、洗って、乾かす」リサイクル形式のベルマーク運動として他に例がなく、「リサイクル意識の向上に役立つ」という評価をいただくことができました。その一方で、回収のための手順や方法などをもっとアピールする必要も感じました。そこで特にアルミ付き紙パックの回収について、より理解していただくことを狙いとして、今年、初めて「アルミ付き紙パック回収チャレンジ」を実施しました。

## キャンペーンの内容

日本テトラパックのベルマーク運動では、使用済みのテトラパックの紙パックを集めてお送りいただくと、その重量に応じてベルマークの点数となります。このキャンペーンでは集めた「アルミ付き紙パック」の重量により豪華賞品を用意しました。テトラパックの紙パックには、内側が白い「アルミなし紙パック」と内側が銀色の「アルミ付き紙パック」があります。「アルミ付き紙パック」のベルマーク点数は「アルミなし紙パック」の2倍です。

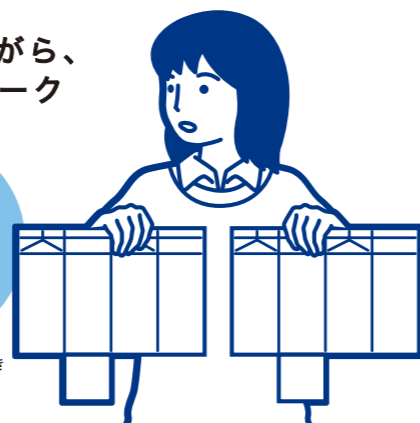
アルミ付きのほうが、貯めやすい。

ベルマークの点数は  
アルミ付きは、アルミなしの **2倍**



アルミ付き  
紙パック\*  
**40点/kg**

\* 紙パックを開いたとき  
内側が銀色



アルミなし  
紙パック\*\*  
**20点/kg**

\*\* 紙パックを開いたとき  
内側が白色

紙パックをリサイクルしながら、  
かしこく貯めよう、ベルマーク

たくさんのご参加ありがとうございました！

## 初めてチャレンジ賞

今回のキャンペーン期間中に集めた「アルミ付き紙パック」の重量などに応じて表彰し副賞を贈呈しました。

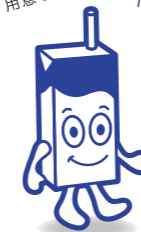
- 西富士宮幼稚園（静岡県）
- さくら保育園（茨城県）
- 学校法人太清学園百島幼稚園（愛知県）
- 国立富士見台団地 幼児教室 風の子（東京都）
- 草津町立草津小学校（群馬県）
- 三宅村立三宅小学校（東京都）
- 旭小学校（鹿児島県）
- 豊橋市立八町小学校（愛知県）
- 京都市立桂小学校（京都府）
- 倉敷市立児島小学校（岡山県）
- 横須賀市立荻野小学校（神奈川県）
- 学校法人おかやま希望学園（岡山県）
- 防府市立佐波中学校（山口県）
- 神戸市立桃山台中学校（兵庫県）
- 千曲市立埴生中学校（長野県）

## 継続は力で賞

テトラパックのベルマーク運動参加開始当時から、今回のキャンペーン終了時まで集めた「アルミ付き紙パック」の累積重量に応じて表彰し副賞を贈呈しました。

- 西那須野幼稚園（栃木県）
- 豊山学園天使幼稚園（愛知県）
- 川口アソカ幼稚園（埼玉県）
- ほんごう幼稚園（岐阜県）
- 堺市立登美丘西小学校（大阪府）
- 向東小学校（広島県）
- 堺市立金岡小学校（大阪府）
- 岐阜県立岐阜本巣特別支援学校（岐阜県）
- 日野市立滝合小学校（東京都）
- 久留米市立高良内小学校（福岡県）
- 亀井野小学校（神奈川県）
- 女子聖学院中学校・高等学校（東京都）
- 綾羽高等学校（滋賀県）

紙パックをリサイクル！  
学校、ご家庭で  
ご利用いただけるものを  
用意しました！



テトラパック君回収ボックス  
紙パックを再生したダンボール  
を使用しています



写真左上から時計回りに  
・リサイクルありがとう  
トイレットペーパー  
・リサイクルありがとう  
ボックスティッシュ  
・ペーパーラフト(カビバラ)  
・書道半紙

紙パックを再生して作られています。



リサイクルありがとう  
ノート（B5サイズ 3冊パック）  
再生紙を使用して作られています。





受賞校インタビュー

## 草津町立草津小学校

創立年：1947年  
 児童数：226人(2018年4月現在)  
 温泉観光地として有名な群馬県草津町にある小学校。1978年からベルマーク運動に参加し、2017年には累計点数が800万点に達しました。その原動力は、保護者全員がベルマークの整理作業に参加していること。地域の方々の理解も深く、温泉旅館や土産物店、飲食店などから毎年たくさんのベルマークや紙パックが集まります。校内では5・6年生のベルマーク委員が中心となり、年間10万点突破を目標に活動を盛り上げています。

### 地域ぐるみの協力で年間10万点突破を目指す!

**草** 津小学校では、テトラパックの紙パック回収を2012年にスタートしました。紙パックのリサイクルは開いて洗って乾かすという作業が発生します。ベルマーク活動のとりまとめを行う山口幸美支援員によると、保護者や地域の方々にご協力をお願いすべきかなどを教職員、PTA役員、ベルマーク委員の児童らで何度も話し合ったとのこと。こうした入念な準備の甲斐もあり、初年度から予想をはるかに上回る量の紙パックが集まったそうです。「初めの頃はテトラパックのマークが付いていない紙パックも多く寄せられましたが、全校集会やプリントなどで周知徹底を図ると、徐々に減っていきました」。PTA会長の山口裕巳さんは「家族で買い物へ出かけると、子どもから『その商品、テトラパックのマークが付いているか確認して』と厳しいチェックが入るんですよ」と話してくださいました。

**2** 017年からは給食の牛乳がテトラパックの紙パック入りになったことで、自分が飲んだ牛乳の紙パックを開いて洗い、教室で1日乾燥させるという習慣が全校児童に定着。アルミ付き紙パック回収に際しては、ベルマークの点数がアルミなし紙パックの2倍になることを保護者や地域施設に伝え、ソフトクリームミックスを使う道の駅や土産物店、流動食を扱う病院などから協力を得ています。「皆さん、きれいに洗ってしっかりと乾かしてくださるのでとても助かっています」と山口支援員。また、ベルマーク委員長を務める6年生の齋藤英美里さんは「アルミ付きパックがトイレトーパーなどに再生されて自分たちで使えるのはとても良いことなので、それを多くの人に知ってもらいもっとたくさん集めていこうと思います」と、今後の活動に意欲をのぞかせていました。



キャンペーンの受賞賞品を手にガッツポーズ。左から丸山三美校長先生、山口支援員、齋藤さん、PTA会長の山口さん。



学校給食の牛乳パック。児童たちが開いて洗って教室で1日乾燥させたものを、各クラスのベルマーク係が収集場所へ毎日運んでいきます。



病院から寄せられた流動食入りのアルミ付き紙パック。施設からの連絡を受けて、山口支援員とベルマーク委員会の児童が収集に向かいます。



校内には、給食の牛乳パックの開き方を紹介したポスターを掲示。



学校や施設で収集した紙パックを、容量別に仕分けしながら専用の収集箱に効率よく詰めていきます。

### 道の駅 草津運動茶屋公園



### ご当地ソフトクリームでアルミ付き紙パック回収に貢献

**草** 津小学校に隣接する「道の駅 草津運動茶屋公園」では、2018年2月からソフトクリームミックスのアルミ付き紙パックを同小に提供するようになりました。「山口幸美支援員からぜひ協力してほしいと言われ、すぐに快諾しました。私の子どもも草津小学校の卒業生なので、施設としてもぜひ協力したいと思っていました」と、職員の本湯さん。「開いて、洗って、乾かした紙パックは、たまるとベルマーク委員が取りに来てくれますが『学校に用事があるからついでに』と運んでくれる保護者の方の協力もあります。今回のキャンペーンで草津小学校が受賞校に選ばれ、私たち職員も大変喜んでます。これからも子どもたちの役に立てるよう、地元特産の花豆を使ったご当地ソフトクリームどんどんPRしていこうと思います。」



受賞校インタビュー

# 三宅村立三宅小学校

創立年：2007年  
児童数：80人（2018年12月現在）  
三宅島にある唯一の小学校。三宅島では2000年8月に発生した噴火によって全島避難を余儀なくされ、その影響で当時3校あった小学校が廃校となり三宅小学校が新設されました。現在は1学年1クラス編成。ベルマーク運動は2018年4月に6年生（全16人）の発案によってスタート。2019年2月末までの期間限定で、ベルマークのほか、学校給食の牛乳パックや保育園から寄贈されるアルミ付き紙パックを中心に収集を行っています。

## 下級生へのプレゼントとして6年生が活動をスタート

三宅小学校でテトラパックの紙パック回収が始まったのは、「下級生たちに何か役に立つものを贈ろう」という6年生の提案がきっかけでした。「自分たちが卒業したあと、在校生が必要なときに必要なものを購入してほしい」という思いが活動につながりました」と話すのは、6年生担任の東佑太郎先生。給食の牛乳がテトラパックのアルミ付き紙パック入りだったため、まずは6年生が自分たちが飲んだ分だけを収集し、まもなく全校児童と教職員の牛乳パックも回収するようになりました。「給食が終わると、6年生が全校分の紙パック約100個を開いて洗って乾かします。子どもたちが自ら決めた3万点を目標に、毎日積極的に作業していますよ」と、東先生。各家庭からの紙パック回収にあたっては、島内で販売されている対象商品のパッケージ写真を掲載したポスターを作成。6年生が校内をまわり、下級生に開き方や洗い方をていねいに説明したそうです。

さらに、地域の方々にも協力を仰ぐため、6年生が商店や保育園、診療所、役所などにポスターやチラシを配布しました。それまで島内では紙パックを焼却処分していたこともあり、リサイクルに関心のある人や施設からの寄贈も徐々に増えているとのこと。副校長の百田明弘先生は、「荒天で船や飛行機が欠航すると食料品の入荷もストップしてしまうので、島内で販売されている飲料の紙パックは常温保存可能で賞味期限の長いアルミ付きが多いんです。そのため寄贈される紙パックにはアルミ付きのものもあり、効率よく点数を貯めることができます」と話していました。

紙パック回収をはじめとするベルマーク運動は現在の6年生が卒業するまでの期間限定ですが、島内に根付き始めたこの活動を来年度以降も継続すべく、PTAにも協力を呼びかけていきたいそうです。



各学年から集まった給食の牛乳パックを6年生の当番が手際良く開いていきます。



開いた紙パックを隅々までていねいに洗い、ピンチ付きのハンガーにぶらさげて乾かします。



家庭や施設から回収した紙パックはアルミ付きとアルミなしに分別します。



乾燥させた紙パックの箱詰め作業も6年生が担当。効率良く詰められるよう、体重で圧をかけてふくらみを抑える工夫も。



## 島内唯一の紙パックリサイクル活動

### キャンペーンの受賞賞品を通してリサイクルへの関心もアップ！

今回のキャンペーン受賞を受けて、日本テトラパック社員が三宅小学校を訪問し、紙パックで再生したテトラパック君回収ボックスやトイレトーパー、書道半紙などの賞品を6年生に贈呈しました。その後、集められた紙パックがどのような工程でリサイクルされるのかを説明。児童たちからは「紙の原料になるパルプってどういうもの？」「回収した紙パックでもう一度牛乳パックを作ることはできるの？」

といった質問があがり、リサイクルへの理解と関心がますます高まったようでした。また、同校の栄養士の先生からは「この活動を始める前は、給食の牛乳パックは燃えるゴミとして廃棄していましたが、回収するようになって学校から出るゴミがずいぶん減りました」とのお話も。三宅島では唯一の紙パックリサイクル活動ということもあり、今後の継続が期待されます。



給食の牛乳パック回収や、全校・地域への呼びかけなど6年生の日々の活動が受賞に結びつきました。



紙パック回収後のリサイクルの流れに関する説明に、6年生たちは熱心に耳を傾けていました。

# リサイクルできる「アルミ付き紙パック」

今回、初めて開催した「アルミ付き紙パック回収チャレンジ」キャンペーンは、全国から209団体に ご参加いただきました。キャンペーンに関するアンケート調査の結果、「アルミ付き紙パック」がリサイクルできるという認識が広がったことがわかりました。アンケートにご回答いただいた団体の皆さまには、心よりお礼申し上げます。



キャンペーン参加団体総数は209、アンケートにご回答くださった団体は84でした。(回答率40.2%)

## Q1 回収目標を立てましたか？

n=84



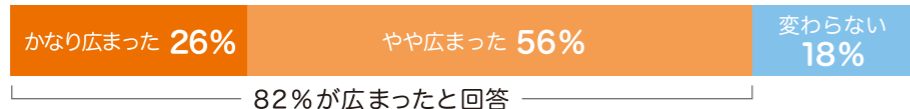
キャンペーン以降に回収を始めた団体の約6割が目標を立てており、キャンペーンをきっかけにアルミ付き紙パック回収に取り組んだと考えられます。一方、キャンペーン前から回収していた団体は約8割が目標を立てなかったようです。これまでの回収活動の延長で取り組んだものと考えられます。

## Q2 集め方を話し合いましたか？



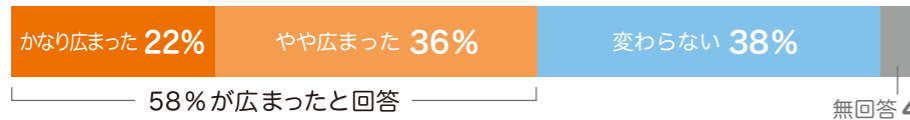
集め方を話し合わなかったという回答はキャンペーン前から回収していた団体に多く、すでに回収方法を確立しているためと考えられます。

## Q3 保護者の間に「アルミ付き紙パックはリサイクルできる」という認識は広まりましたか？



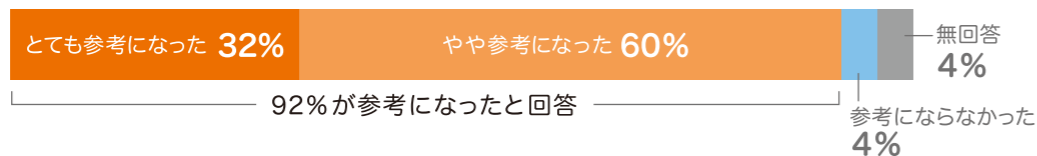
82%が広まったと回答

## Q4 子どもたちの間に「アルミ付き紙パックはリサイクルできる」という認識は広まりましたか？



58%が広まったと回答

## Q5 キャンペーンエントリーシートに記載された集め方の事例は参考になりましたか？



92%が参考になったと回答

# 集める工夫をご紹介します！

キャンペーンのアンケートでは、アルミ付き紙パックの集め方の事例についてお尋ねしました。参加する人の輪を広げるための工夫を教えてくださいましたので、ご紹介します。



## 公民館に協力してもらい、来る人に持参してもらった。

飲食店にお勤めの保護者に声をかけ、協力してもらった。

地域と連携する

地域のコープに協力してもらい、テトラパックの紙パック回収箱を置かせてもらい、週に一度回収している。

身近な気づきを大切に

お祭りで出た飲み物にアルミ付き紙パックがあることを子ども会で声掛けし、PTA便りで告知した。

園でアルミ付パックのジュースが出たので、先生に話して回収した。園長はアルミ付きは対象外と聞いていたので認識が改まり、先生の間にも広まった。

給食で出るジュースのバック(アルミ付き)を回収することで、児童に意識付けた。児童が意識することで、家庭からの回収量も増えた。

イベントで盛り上げる

特定日 を設けて、学年別にテトラパックを回収するイベント を初めて試みた。

PTA主催の学校バザーの際に、アルミ付き紙パックの実物を掲示し、皆さんに告知。プリント配布やクラス対抗のベルマーク大会も開催。

回収箱を活用する

校内の購買部でアルミ付き紙パックのジュースを販売しているので、回収箱を購買部にも設置。PTAが定期的に回収している。

アルミ付き用とアルミなし用と回収箱を2つ作り、職員室入り口に設置した。

ランチルームに回収箱を設置しておき、いつでも持ってこられるようにした。

いつでも回収できるように園に回収箱を設置した。保護者には繰り返しになっても、こまめに回収方法を案内。

新入園児受付時、保護者一人ひとりにチラシをもとにテトラパックについて説明、実物を見せて協力を依頼している。

チラシの配布と掲示で、キャンペーン参加をアピール。

保護者・児童向けの「ベルマークだより」にキャンペーン参加、中間報告、最終結果を紹介。アルミ付きは点数が高いことをアピールした。

絵を入れたお手紙 を作成し、全児童に配った。子どもも興味を持ってもらえるように工夫した。

夏休み前に配布したお便りにキャンペーン参加のことを載せたら、アルミ付き紙パックの回収が増えた

積極的に告知する

園の掲示板にアルミ付き紙パック回収のポスターを貼り、保護者の目に留まるようにした。子どもたちにも分かるように、園児の前で箱詰めなどをした。

回収箱を常設し、学校のLINEで集めていることを知らせた。ベルマーク新聞を作り、地域にも知らせた。

アルミ付き紙パックで販売されている商品名、メーカーを調べ、収集の案内に掲載した。また、スーパーに働きかけて、専用の回収ボックスを設置してもらった。

集会で子どもたちに、ベルマークとテトラパックの紙パックについて話しをし、「お母さんたちにも教えてね」と促した。

# 日本テトラパックのベルマーク運動は、 社会貢献と環境活動の2本立てです。

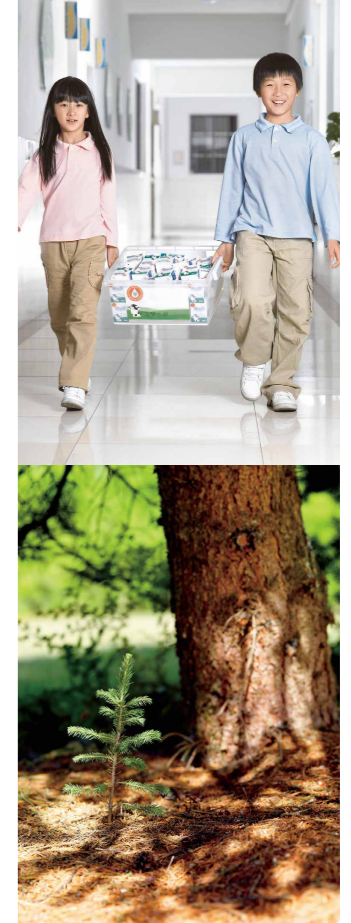
## ベルマーク運動とは？



「すべての子どもに等しく、豊かな環境のなかで教育を受けさせたい」という願いを込めて、ベルマーク運動は1960年に始まった社会貢献活動です。協賛会社の商品についているベルマークを学校などの登録団体に集め、ベルマーク教育助成財団に送付することで、団体ごとのベルマーク口座に点数がたまります。この点数が1点1円で換算され、学校の備品や教材などを購入することができます。また、同時にその購入代金の1割相当分が、商品を販売した協力会社からベルマーク財団に寄付され、特別支援学校(養護学校、盲学校、聾学校など)や途上国の子どもたちのために使われています。

## 社会貢献も、環境活動も。

日本テトラパックのベルマーク運動は、ベルマークを切り取るのではなく、テトラパックの紙パックそのものを、「開いて、洗って、乾かして」送るというやり方です。飲み終わった後の牛乳やジュースの紙パックを集め、テトラパック回収センターに送るとその重量に応じて点数がたまります。このように紙パックのリサイクルにも役立つ活動になる日本テトラパックのベルマーク運動は、従来からベルマーク運動が果たしてきた社会貢献に加え、環境意識の向上と実践にもつながることが大きな特徴となっています。



## 日本テトラパックのベルマーク運動のしくみ

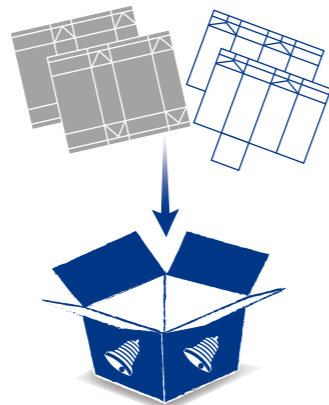
開いて、洗って、  
乾かして、集める



テトラパックの  
マークがついているか  
ご確認ください



専用回収箱に入れる



送る

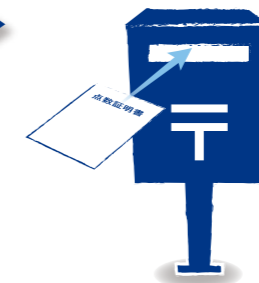


計量・集計して  
リサイクル

テトラパック回収センターで  
集められた紙パックを計量。  
重量に応じたベルマークの  
点数を集計します。その後、  
紙パックはリサイクルされます。



ベルマーク  
点数証明書を  
受け取る、財団へ送る



ベルマーク預金になる。  
学校の備品や教材を  
購入できます

購入代金の1割相当が  
寄付され、特別支援学校  
(養護学校、盲学校、聾学校など)や  
途上国の子どもたちを支援



自分たちの学校づくり  
お友達への援助  
そしてリサイクルに  
貢献できるね!

集めていただいた  
テトラパックの紙パックは  
すべて有効活用されています。


紙パックに使用されている紙は、長くて丈夫な紙繊維でできており、トイレットペーパーなどの原料として再利用されます。残りのポリエチレンやアルミ箔の部分は、再生紙を製造する時に必要な熱エネルギーとして再利用しています。

日本テトラパック株式会社

お問い合わせ 日本テトラパックのベルマーク運動受付センター

TEL.03-3816-8377 受付時間/平日 10:00～16:00



Tetra Pak, , PROTECTS WHAT'S GOOD, テトラパック、「大切なものを包んでいます」は、テトラパック・グループに帰属する商標です。  
[www.tetrapak.com/jp](http://www.tetrapak.com/jp)

 Tetra Pak®